

第4章

目黒区環境マネジメントシステムの取組

区の環境マネジメントシステムである「目黒区地球温暖化対策推進第二次実行計画（めぐろエコ・プランⅡ）」における2018（平成30）年度の取組実績と、取組に対する評価について報告します。

2018（平成30）年度の取組結果

▶ 温室効果ガス排出量・エネルギー使用量の削減

2018（平成30）年度は、4月、7月、8月及び10月から3月までの気温が平年を上回る気象状況でした。このため、7月・8月の猛暑による、エネルギー使用量の増加はあったものの、4月及び10月から3月までの電気・ガスの使用量が抑えられたため、年間を通しては、基準年と比較して減少となりました。

また、LED照明などの省エネルギー設備の導入や節電、節水に取り組んだ結果、温室効果ガス（二酸化炭素換算）排出量原単位は、2012（平成24）年度の基準値と比較して、3.4%減少することとなりました。

加えて、エネルギー（原油換算）使用量原単位についても、2012（平成24）年度の基準値と比較して、3.8%減少しました。



＜環境保全キャラクター ちきゅうくん＞

＜温室効果ガス排出量・エネルギー使用量と内訳＞

区 分	【基準年】 2012 (平成24) 年度	2018 (平成30) 年度	対基準 年度比
温室効果ガス (二酸化炭素換算) 排出量原単位 (単位:t-CO ₂ /千m ²)	43,071	41,599	-3.4%
エネルギー(原油換 算)使用量原単位 (単位:KL/千m ³)	23,415	22,529	-3.8%
電 気(千 kWh)	32,081	31,922	-0.5%
都市ガス(千 m ³)	2,862	2,828	-1.2%
水 道(千 m ³)	793	720	-9.2%
下 水 道(千 m ³)	799	720	-9.9%
ガソリン*(千 L)	38	56	+47.3%

※ ガソリンは使用量ではなく購入量。

▶ 環境負荷の低減に向けた取組

「ごみの排出量」と「紙の使用量」は、前年度以下に減らすことを目標としていますが、2017（平成29）年度と比較すると、ごみの排出量は増加しました。また、紙の使用量についても、用紙の購入量、外注印刷物ともに増加しました。

＜ごみの排出量＞ (単位：t)

区 分	2017 (平成29) 年度	2018 (平成30) 年度	対前年度比	
排出量	1,100	1,158	+5.3%	
内 訳	燃やすごみ	923	967	+4.8%
	燃やさないごみ	153	163	+6.5%
	資源	25	29	+16%

＜紙の使用量＞ (単位：万枚)

区 分	2017 (平成29) 年度	2018 (平成30) 年度	対前年度比
用紙の購入量	4,369	4,381	+0.3%
外注印刷物	3,451	3,551	+2.9%

※ 紙はA4サイズに換算しています。

2018（平成30）年度の取組結果に対する評価

区民と学識経験者からなる第三者評価委員会が、「めぐろエコ・プランⅡ」の2018（平成30）年度の取組結果について、1から5までの5段階で評価しました。評価結果を踏まえ、今後も環境負荷の低減に努めていきます。

（取組全体に対する意見）

今年度の評価として判断するなら「5（とてもよくできている）」であろうが、最終目標の達成が叶わなかったということで「4（よくできている）」とする。しかし、これだけの実績を上げたのだから、これを今年度の取組にも反映するよう、好成績の要因を精査して欲しい。

用語解説

用語	説明	頁
ヒートアイランド現象	都心域の気温が郊外に比べて高くなる現象で、等温線を書くと島状に見えるためヒートアイランド（熱の島）といわれる。人工排熱（空調排熱や自動車からの排熱）の増加や、自然地（土、水面、緑地等）の減少が原因で引き起こされる。	2
環境配慮型の道路整備	保水性舗装（空隙を多くしたアスファルトの中に保水材を充填した構造で、降雨によりしみ込んだ水が蒸発する際の気化熱を利用した路面温度の上昇を抑制する舗装）や遮熱性舗装（路面に太陽光の赤外線を反射する遮熱材を塗布した、路面温度の上昇を抑制する舗装）などがある。	4 5
温室効果ガス	太陽光線によって暖められた地表面から放射される赤外線を吸収し、大気を暖め、一部の熱を再放射して地表面の温度を高める効果をもつガス。二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素など。	4 16
エコロジカルネットワーク	人と自然の共生を確保するため、生態的なまとまりを考慮した上で、自然地域を有機的に繋いだ生態系のネットワークのこと。ネットワークの形成により、野生生物の生息・生育空間の確保、人と自然とのふれあいの場の提供、地球温暖化防止など、多面的な機能が発揮されることが期待される。	8
光化学オキシダント	大気中で太陽光中の紫外線を受けて、光化学反応により生成する大気汚染物質群のうち、二酸化窒素を除いたもの。	10 11
窒素酸化物	燃料中や空気中の窒素が燃焼して酸化することにより生成する物質。健康影響のほか、光化学オキシダントの原因物質のひとつとなる。	10 11
BOD（生物化学的酸素要求量）	河川の水質を表す指標のひとつで、水中の微生物が有機物を酸化・分解するときに消費する酸素の量を示す。BOD値が大きいほど汚濁物質（有機物）が多く、水の汚濁が進んでいるといえる。	10
河床整正・浚渫	河床をならし、堆積した土砂を取り除くこと。	11
カーボン・オフセット	温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減できない量の全部又は一部を他の場所での排出削減・吸収量でオフセット（埋め合わせ）すること。	13